注意

□會友諸君から送らるゝ批評畫は、前月二十日迄に送つたものは翌月十日迄に返送する定めになつてゐる。評者は、この二十日間に都合よき一日を批評の日に宛てゝゐる。それ故、二十一日に批評を終る時もあり、十日に漸く終る時もある。批評を請はるゝ方が、二十日迄に送り越されて、幸ひ二十一日に終れば、評者の手許に、僅か二三日滯在するのみで提出者に返るが、若し遲れて、二十一日批評の終つた後に着いて、評者が、次の批評を十日頃迄やらない時には、結局五十日間程手許に在る譯で、提出者も待遠しからうし、評者も迷惑であるから、以後、必ず二十日迄には、本會へ着するやうに御送りを願ひたし。

□四種郵便物として送らるゝ繪畫の中へ、郵便切手を入れて置くと反則になります。

□包紙に、たゞ姓名のみで、自己の宿所を書かぬ方あり、返送の時取調に手數を要するから、必ず楷書で明記せられたし。

□包裝は桑田式が一番よい。次は極厚いボール紙二面の間に挿みて、十文字に糸で括るか、又は油紙に包むのもよい。解くのに面倒であつたり、返送の時手數のかゝる包裝は、一切御見合せに願ひたし。

□一ツ切位ひの大きいのは、二枚の板の間に挿むで送られたい。薄いボール紙では東京の郵便局で小包として受付ない。卷て送られると、自然潰れたりして折目がつく。

□說明は、寫生の月日、天候、光線の方向等が分ればよい、詳しい事は不用。また、繪には畫題なり番號なりつけて貰ひたし。

□要するに、包裝は簡單にして、双方の數手のかゝらぬやう工風されたい、あまり面倒なものや、說明の無いもの等は、自然あと廻しになつて返送が遲れます。

□振替貯金といふものは、例へば七日に熊本で拂込をすると、東京の局で扱ふのは十日で、其夜か十一日の朝でなくば會へ通知が來ない、夫から雜誌を發送すると、早くとも十三日でなくば熊本へ到着せぬ譯ゆへ、通常の郵便にて注文したよりも、二三日は遲れるものと御承知ありたし。

□『みづゑ』の原色版は、二三ヶ月前から製版印刷に着手するのであるから、讀者が增しても急に增刷することが出來ない、從つて發行と同時に品切になることがある、それ故御注文は可相成發行前に願ふ。

□質問、讀者の領分、需供案內等の原稿は必ず別紙に認むること、然らざれば其內の一若くは二は沒書になるかも知れない。

近事

△日本水彩畫會研究所九月例會は、二十五日開會、午前眞野氏の透視畫法講話、午後出品百八十點に對する戶張、磯部、岡、大下諸氏の批評、並びに戶張氏の講話あり。當日の受賞者は武田芳雄、瀧澤靜雄、奧村熊四郎、赤城泰舒、の四氏なりし。